

愛称募集しています

いわき市四倉町上柳生地区、フラワーセンターのちょうど真裏にあたる地区に、「天空の里山」と名付けられている有機農業の農園エリアがあります。そこは「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」の栽培地の一つになっています。大型バスが入ることの難しい急な山道の先ですが、地区の住民のみならず、全国各地からこの里山に足を運んで農作業に汗を流す方々が通ってきており、昨年度はその数が1000人を超えました。農園のオーナー兼管理者である福島裕さんの人柄に惹かれて集まる多くの方々を迎え入れる場として、昨年度、住友商事様の助成事業として都市農村交流拠点の建物が建てられました。



▲建物内での交流の様子

最初は外壁1枚だけの簡単な建物でしたが、集う方々が力を合わせて整備を進め、ソーラー発電で明かりを灯し、内壁を取り付け、薪ストーブやホワイトボードまで備わった施設になりました。この施設にたくさんの方々にこれからの集っていただく為、皆に愛される名前を付けていただきたいと考えています。

愛称募集の締切は4月30日。「これぞ!」という名前を思いつかれた方は、事務局までFAXまたはメールでお知らせ下さい。その際、お名前・ご連絡先・所属等もお知らせください。採用の方には記念品を差し上げます。



▲愛称募集のチラシ

ふくしまオーガニックコットンプロジェクト報告会in東京

「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」の都内での報告会を、例年通り今年も催すことになりました。日時は、5月23日(木)14:00-17:00。会場は青山の国連大学1階にある地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)です。終了後は会場



▲昨年の報告会参加者

を移しての交流会も催すことになっています。参加希望者は事務局までお申し込みください。

定期総会の開催のお知らせ

- 日時: 令和元年 5月29日(水) 午前11時~
- 会場: ザ・ピープル事務局
(〒971-8168 いわき市小名浜君ヶ塚町13-6)

ミクロネシアの離島の女性たちとのコラボに向けて

ピープルとしてJICAに申請書を提出し、ミクロネシア連邦の非電化地域である離島の女性たちに自らの手で電気を生み出し、コントロールする技術を伝えたいとのプロジェクト案を認めて頂いたのが、昨年の初めでした。前回の現地訪問が2016年のことでしたから、具体的な動きを取れずに丸2年が経過してしまっただけでなく、何もしなかった訳ではなく、事業をスタートするための第一関門であるミクロネシア政府からのNGO登録認証に手間取っていたのでした。

勿論、2年という年月は決して短くありません。この間に島の状況が変わっているのではないかと女性たちの思いは既に離れてしまっているのではないかと?事業案自体が意味のないものになっているのではないかと?…事業を実施するために、もう一度はつきりさせなければならないことが、膨れ上がりました。そこで、それを確認するための渡航を、4月9日から15日に実施しました。

チューク州の州都であるWENO島には、中国からの支援で建設された州政府事務所が出来上がり、道路の舗装が進み、アメリカ系のホームセンターが大規模営業を開始していたりと、大きく様変わりしていました。中でも、プラスチック袋の使用がチューク州として禁止されたとの情報には、それまでゴミの投棄が当たり前だった状況にあったミクロネシアでの環境問題への認識の高まりを感じさせるものがありました。

一方、離島の暮らしは大きな変化はなく、非電化地域として残されたままでした。わずか小舟で20分ほどの距離にあるWENO島では普通に電気のある暮らしがありながら、75世帯ほどのこの島で発電機を使用し、電気のある暮らしを送っているのはわずか5軒ほどという現実。そこから女性たちが生活を改善していくために何が必要なのか、女性たちとの議論の中からたどり着いた結論が、ソーラーで生み出す電気でミシンを使い、チュークスカートと言われる民族衣装を縫い上げ、



▲ミクロネシア現地の方々と一緒に

WENO島に持って行って販売する事業をしたい!という希望でした。ソーラーでの電気と、女性と、衣服と…本会らしいコラボレーションが見えてきました。



私たちの活動を会員として支えて下さい。
会費納入をよろしくお願い致します。

会費: 活動会費 (実際に活動に参加される方と、会報購読という形で支援して下さる方) 2,000円/年
賛助会員 (資金的な面から支えて下さる方と法人・団体会員) 10,000円/年

郵便振替 (02110-0-24908) でお送り下さい。

ひびき

震災から8年目となる3月17日。浜通りふるさと音楽祭が稲葉町コミュニティセンターで開催された。稲葉町は浜通りでいち早く帰還宣言が出された町であるが、住民の帰還は思うようには進まなかった。ようやく夜場機能が戻り近隣のコンバクトタウンが建設された復興への足音が聞こえる町になってきた。日本でも最も早く太陽が昇りゆく地域のひとつが、福島県浜通りだといわれる。一人一人の心に、輝く希望の太陽が昇りますようにとの思いを込めて開催したこの音楽祭には当日400人が集い盛大なものとなった。避難先だったいわきの地に既に居を構えた人達も多量に、ふるさとで開催される音楽祭と知り連絡を取り合っており、いわきから来られた方が多かった。今回私自身、の怪我で車椅子での参加となってしまう。お手伝いできなかった事が悔やまれる。思えば震災から4年目の3月10日ザ・ピープル主催で開催したふるさと再コンサート福島編は、いわき市常磐に建設された広野町仮設の集会所において、30人が集う小さなコンサートだった。開会直前、第一回、あの仮設住宅ですごい声と掛け下されたのがあった。京都から駆けつけたピアノの宮下さん。当時の宮下さんは東北の震災報道に心を痛め、その思いは60編の詩となり曲が生まれたという。そして、実現したのが「ふるさと再コンサート福島編」だった。振返ればこの音楽祭は第2回3回共いわきで開催、その中心になって取り組まれたのが東京に住まいの佐藤さんご夫妻である。復興庁への補助金の申請、町役場との交渉等々その苦労は並大抵のことではなかったと思う。何となくも凄いなことは地元ならは天神大試うしお会「ならはコラス」を巻き込んで開催したことである。最後に登場されたシャヤン歌手の岸本悟明さん。優しさやユーモア溢れるトーク。息もつかせぬほど圧巻の歌。会場は歓声の渦つた。文化社長プロの音響担当者、作曲家から指揮者、歌手、ピアノリスト等々出場者全員がボランティアであった事。まさに奇跡の音楽祭だったと思う。どうしたら思返してできるのかしら。と呟いた私たち。